

ビジネス現場の効率化

現場改善にITを有効活用 ～現場の課題を 解決するJP1～



日本を代表するシステム運用管理ソフトウェアとして、長年にわたり国内売り上げシェアNo.1^{※1}を獲得しているJP1。その活用シーンはこれまでのIT部門だけでなく、製造業や社会インフラをはじめとする現場作業にも拡大しています。設備点検作業の標準化・効率化、現場データの効率的な保護や授受、現場の機器と連動した通報機能の強化といった、さまざまな課題解決をJP1が力強く支えているのです。今回は、IT分野で培った技術と運用ノウハウを製造現場でも活用できるJP1の魅力について特集します。

※1 2016年8月時点。テクノ・システム・リサーチ調べ

現場業務を持つ企業が 最初に取り組むべきこと

IoT^{※2}やビッグデータ、AI^{※3}（人工知能）、クラウドなどを活用してビジネスイノベーションを追求するデジタルトランスフォーメーションが進展しています。既存事業戦略の延長では生き残れない厳しい時代を迎え、多くの企業が新たな事業価値を創造し、ビジネスモデルを変革していくためにデジタル技術をフルに活用しようとしているのです。

その潮流は、かねてIT活用を進めてきた企業だけでなく、製造工場や建設現場、医療機関などに加え、鉄道、電力・

ガス・水道といった社会インフラの現場にも押し寄せています。

多様な機器がネットワークでつながり、実世界をさまざまなデジタルデータで捉えられるようになるIoT時代では、膨大なデータやシステムが柔軟に連携・再編されて新しい価値を生み出し、業務改善や経営改革への確かな道筋が示されていくようになります。

企業が競争優位性を確立するためには、明確なビジョンや合理性が確保された経営戦略と、その策定・実行を担うITの力が必要です。しかし、ITと並んで戦略の実行部隊となる「現場」の力が衰えていては、目標の実現はままなりません。

将来的なイノベーションも見据えながら、現場業務を持つ企業が優先的に取り組むべきことは、これまで進めてきたIT活用に加え、OT^{※4}の現場課題に対してもITの力を活用し、着実に可視化、効率化、標準化などを進めていくことです。

※2 Internet of Things

※3 Artificial Intelligence

※4 Operational Technology

人手不足や熟練者の減少を どう解決していくか

例えば、製造業のお客さま現場を考えてみましょう。多くの企業では経営管理業務の効率化を図るため、人事や財

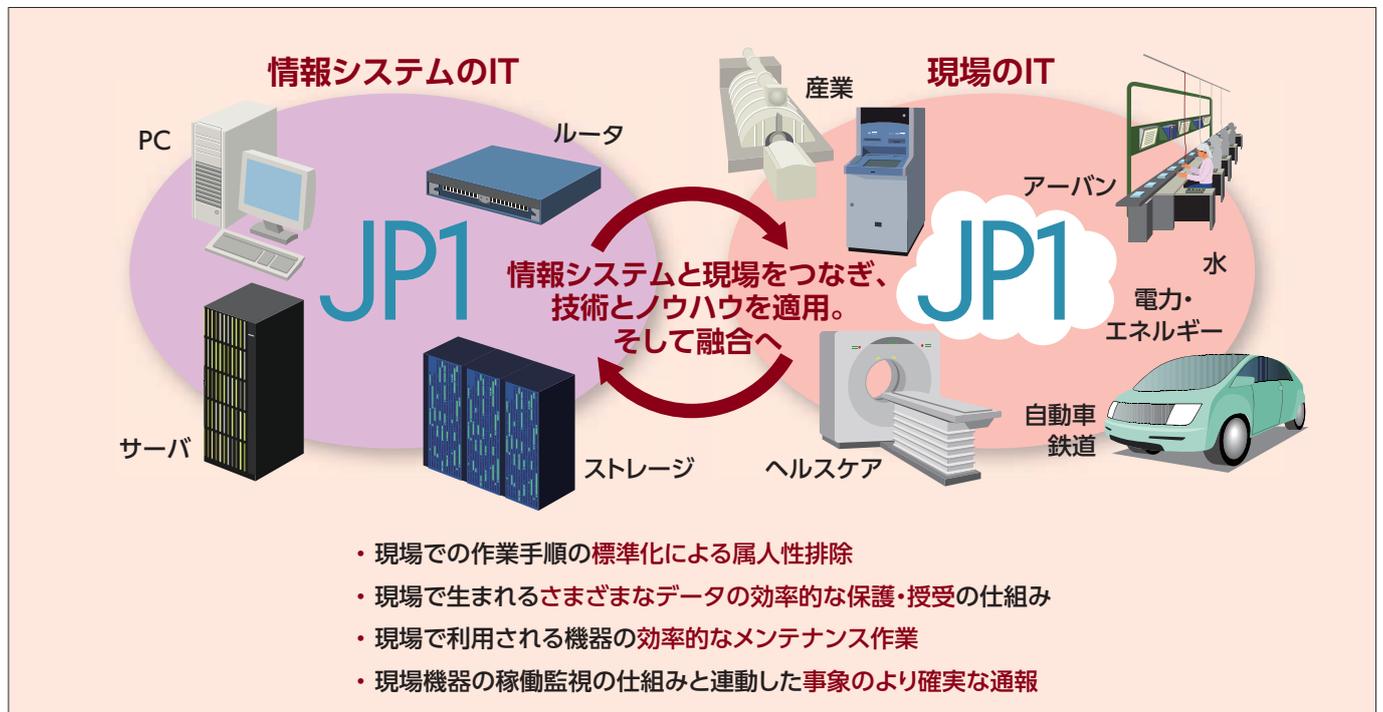


図1 現場の課題をJP1が支援

務会計、勤怠管理にIT系の情報システムを導入し、各データを連携させた統合的な運用が行われています。

しかし、生産管理やデータ管理、監視系といったOT系の情報システムは、まだ現場主導による個別最適の観点で導入されているケースが多く、たとえ運用やメンテナンスに人手や時間がかかる状況であっても、ラインを止めないことを最優先としているため、なかなか個々の業務改善にまでは着手できないのが実情です。

日本の製造業は長年、伝統的な業務改善活動を通じて、生産品質の向上やラインを止めないための設備保全に取り組み、世界に通用する卓越した競争力

を維持してきました。ところが少子高齢化の進展による人手不足と熟練者の減少などにより、そのアドバンテージも薄れつつあります。設備点検などでは、いまだ紙の手順書やチェックリストをベースとしている企業が多く、チェックの抜けや漏れが生じたり、遠隔地で行った点検結果をPCに入力するために、わざわざ事務所へ戻ったりするような非効率な運用も行われています。また、作業の細かなノウハウが熟練者に属人化されているため、若い世代にうまく引き継がれず、今後点検漏れなどに起因するトラブルがさらに増えていくことも予想されます。

現場のITと情報システムのITを融合

現在は製造機器やロボット、スマートメーター、監視カメラなど、多くの現場機器がコンピュータ化、ネットワーク化されており、OSやアプリケーションのアップデートや稼働監視、データのバックアップやセキュリティ対策、機器の資産管理、定期的な保守点検などの業務が急増しています。

人手不足やノウハウ継承、コスト削減などの課題が山積しているなか、ITを使った解決への道筋としては、現場のITと情報システムのITを融合しながら、「紙ベースの業務をデジタル化して効率

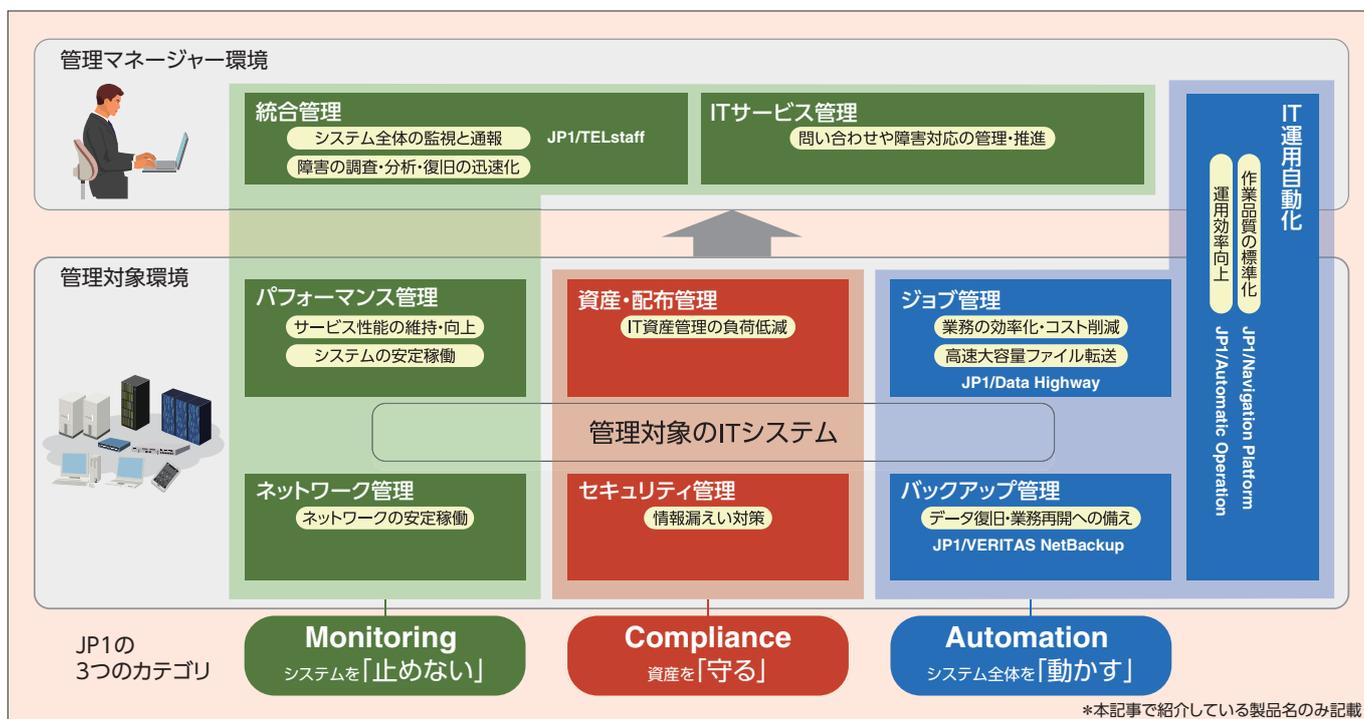


図2 豊富な機能でお客様の多様なニーズに応えるJP1

化を進める」「熟練者のノウハウを標準手順書として提供する」「改善した結果をデータとして可視化する」「個々のデータを蓄積し、活用へとつなげる」「現場負担を軽減し、企業の持続的成長に欠かせない“働き方改革”を実現する”など、さまざまな可能性が見えてきます。そして、こうした課題解決に適したソリューションとしてお勧めしたいのが、日立のJP1です。

ITの現場で活用しているJP1を、OTの現場でも効率化に活用

1994年に提供を開始したJP1は、国内売り上げシェアNo.1を誇る統合システ

ム運用管理ソフトウェアとして、ITシステム運用の自動化やバックアップ管理、セキュリティ管理、パフォーマンス管理、資産・配布管理などを統合的に実現。メインフレーム時代から培ってきた日立の技術やノウハウを結集し、常に時代が求める運用管理を追求し続けてきました。

長年にわたりIT系の情報システム部門で広く活用されてきたJP1だからこそ、使い慣れた技術とノウハウを、OT系の現場でも容易に横展開することができます。IT部門とOT部門が協力しながらJP1を活用すれば、新たに膨大なコストをかけたり、特別なトレーニングを行ったりすることなく、これまで現場で続けてきた業務改善効果の可視化や、属

人化していた業務の標準化などを実現することが可能です。

製造現場を取り巻く管理業務の効率化が必須となっている今こそ、JP1がITで培った業務とノウハウを適用し、生産性を高め、現場力を支援する全体最適化が必要になります。JP1は豊富な機能とラインアップで、お客様の多様なニーズにお応えします。

次ページから、JP1と関連製品を活用して「設備点検作業の標準化・効率化」「さまざまなデータの効率的な保護と授受」「現場機器の監視の仕組みと連動したより確実な通報」を実現したソリューション事例を紹介します。

お問い合わせ先

HCAセンター (Hitachi カスタマ・アンサ・センター)

☎ 0120-55-0504

受付時間: 9:00~12:00, 13:00~17:00 (土・日・祝日・弊社休日を除く)

携帯電話、PHS、一部のIP電話などフリーダイヤルがご利用いただけない場合は、ダイヤルイン: 045-762-3059 (通話料金はお客様のご負担となります)

■ 情報提供サイト

<http://www.hitachi.co.jp/jp1/>